タイプB記入要領

大学の世界展開力強化事業
事後評価調書

「事後評価関係書類等の作成・提出について」に記載している整理番号（事務局にて転載済）

平成30(2018)年度採択

大　学　名 （○が代表申請大学）		整 理 番 号	
主たる交流先	米国　（事務局にて転載済）		
学　長　名			
事業責任者	（氏名）	（職名）	
	（交替年月日）		

事業責任者の氏名及び所属部局等の名称・職名を記入してください。

事業責任者に交替があった場合のみ記入してください。

「交流推進」

事　業　名	
取組学部･研究科等名	（事務局にて転載済）

相手大学等名

	日本語表記	英語表記	国　名	備　考
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				
⑪				
⑫				
⑬				
⑭				
⑮				
⑯				
⑰				
⑳				

（日本語表記は事務局にて転載済）

※英語表記を記載してください。

海外相手大学追加調書を提出した場合は、計画調書の［基本情報］**海外の相手大学**からの転載（事務局にて転載済）に続けて、追加した相手大学等名（日本語表記・英語表記）と国名を記入し、備考欄へ「事後評価時追記」と記入してください。
なお、中間評価時に海外相手大学追加調書を提出している分については、事務局にて記入済みです。

複数年度分の報告書等を提出する場合は、「備考」欄に年度（西暦）を記入してください。
参考資料が3件より少ない場合は、空欄を避けるために、資料名欄に「－」を記入してください。

参考資料一覧

資料名	備　考
1　**学生アンケート**	
2　**大学の世界展開力強化事業　年次報告書**	**2018～2022年度**
3　**―**	

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　）

「代表大学名」を記入してください。

事務担当者	（氏名）		（職名）	
連　絡　先	（住所）	〒 事務担当者の氏名及び所属部局等の名称・職名を記入してください。		
	（電話番号）		（E-mail）	

※事後評価調書の内容等について連絡可能な事務担当者を記入してください（複数名の担当者がいる場合でも代表者1名の氏名・職名を記入してください）。また、連絡先E-mailについては、複数人で確認が可能なメールアドレスを記入してください。

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

交流推進プログラム部分

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容

① 交流プログラムの目的・概要等（計画調書からの転載）

【交流プログラムの目的及び概要】

計画調書の［質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容］
①交流プログラムの目的・概要等
からの転載（事務局にて転載済）

【養成する人材像】

交流学生数については、本調書内の以下の数値において齟齬がないよう注意して作成してください。

［質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容］の「【本事業で計画している交流学生数】」
［取組実績の概要］の「【本事業における交流学生数の計画と実績】」
［２．目標の達成状況］の「⑪本事業において海外に留学した日本人学生数の推移」
［２．目標の達成状況］の「⑫本事業において受け入れた外国人学生数の推移」
［２．目標の達成状況］の「⑬交流学生数」

【本事業で計画している交流学生数】※各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無は問わない）

（単位：人）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
合計										0
申請調書記載人数										
海外相手大学追加調書分										

調書記載人数等を「事後評価データシート①」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　）

② 事業の概念図（計画調書からの転載）

計画調書の［質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容］
②事業の概念図
からの転載（事務局にて転載済）

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

③ 国内大学等の連携図（計画調書からの転載）

計画調書の［質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容］
③国内大学等の連携図
からの転載（事務局にて転載済）

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

取組実績の概要【2ページ以内】

・［**取組実績の概要**］は、事後評価結果とともに基本的に原文のまま公表します。本事業の取組状況や成果、目標の達成状況及び補助期間終了後の展開等について、広く社会に分かりやすく紹介するという観点から作成してください。
・本欄のみで完結するようにしてください。（「事後評価調書〇ページ参照」などの記載は認められません。）
・本欄に記入した内容について、本調書の他項目の記載事項と齟齬がないよう注意して作成してください。

※文字の大きさは１０．５ポイントで記入してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

本事業における交流学生数について、2018年度から2022年度の計画、実績及び合計を記入してください。
計画については、海外相手大学の追加により、計画した交流学生数に変更が生じている場合は、変更後の人数を記入してください。（変更がない場合は、申請時の計画調書に記載した人数を記入してください。）

「事後評価データシート①」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

（単位：人）

		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		合　計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実績	実際に渡航 （以下「実											0	0
	自国にて国 ログラムを 講した学生 （以下「オンライン」）											0	0
	実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

調書記載人数等を「事後評価データシート①」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅰ 【1ページ以内】

【Ⅰ　事業全般について】

・［特筆すべき成果（グッドプラクティス）］は、事後評価結果とともに基本的に原文のまま公表します。本事業の成果について、広く社会に分かりやすく紹介するという観点から作成してください。
・本欄のみで完結するようにしてください。「事後評価調書〇ページ参照」などの記載は認められません。
・適宜図表等を用いて作成いただいて構いません。
・本欄に記入した内容について、本調書の記載事項と齟齬がないよう注意して作成してください。

※文字の大きさは１０．５ポイントで記入してください。

※特に国際教育・交流プログラムにおいて、オンラインを活用し、どのような工夫や改善を図ったかについては、次ページの「特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅱ」に記載してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅱ 【1ページ以内】

【Ⅱ　オンラインの活用について】

・［特筆すべき成果（グッドプラクティス）］は、事後評価結果とともに基本的に原文のまま公表します。本事業の成果について、広く社会に分かりやすく紹介するという観点から作成してください。
・本欄のみで完結するようにしてください。「事後評価調書〇ページ参照」などの記載は認められません。
・コロナ禍であることを踏まえ、オンラインを活用してどのような工夫を図ったかについても記入してください。
・適宜図表等を用いて作成いただいて構いません。
・本欄に記入した内容について、本調書の記載事項と齟齬がないよう注意して作成してください。

※特に国際教育・交流プログラムにおいて、オンラインを活用し、どのような工夫や改善を図ったか（例：オンライン科目の単位互換や単位の相互認定に関する基準・ルールの策定等）について記載してください。

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

事業全体のアクティビティ 【1ページ以内】	
20XX年　月 20XX年　月	採択後から2022年度末までの当該事業に係るアクティビティについて、年月及び内容を、実施時期の早い順に記入してください。 また、補助期間終了後である2023年度のアクティビティについては、記入しないでください。 なお、必要に応じて、採択前（2018年4月～事業開始）のアクティビティを記入してもかまいませんが、それらは事業評価の対象とはなりません。 記入する場合は、下記を参考に採択前のものであることを明示してください。 （採択前のアクティビティを記入する場合） **事業全体のアクティビティ　【1ページ以内】** 20XX年4月　・・・・・・・・・・・・・・・・ 20XX年7月　・・・・・・・・・・・・・・・・ （以上、採択前のアクティビティ） 20XX年12月　・・・・・・・・・・・・・・・・

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

1. 取組実績及び成果

① 交流プログラムの内容 【5ページ以内】

申請時の事業計画	事業計画の取組状況及び成果
【実績・準備状況】 計画調書の **[質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容]** **④交流プログラムの内容** からの転載（事務局にて転載済） 【計画内容】	【取組状況及び成果】 申請時の事業計画と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの取組状況及び成果について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。 【コロナ禍における対応】 コロナ禍において、事業を円滑に運営するための工夫や学生への配慮がなされていれば記載してください。

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【5ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の取組状況及び成果
【実績・準備状況】 計画調書の［質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容］ 「⑤質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成」 からの転載（事務局にて転載済） 【計画内容】	【取組状況及び成果】 申請時の事業計画と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの取組状況及び成果について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。 【コロナ禍における対応】 コロナ禍において、事業を円滑に運営するための工夫や学生への配慮がなされていれば記載してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【(1)～(3)合わせて5ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の取組状況及び成果
(1)外国人学生の受入のための環境整備	
【実績・準備状況】 計画調書の **[外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備]** **①外国人学生の受入のための環境整備** **②日本人学生の派遣のための環境整備** **③関係大学間の連絡体制の整備** からの転載（事務局にて転載済） 【計画内容】	【取組状況及び成果】 申請時の事業計画と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの取組状況及び成果について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。 【コロナ禍における対応】 コロナ禍において、事業を円滑に運営するための工夫や学生への配慮がなされていれば記載してください。
(2)日本人学生の派遣のための環境整備	
【実績・準備状況】 【計画内容】	【取組状況及び成果】 【コロナ禍における対応】

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

（3）関係大学間の連絡体制の整備	
【実績・準備状況】 【計画内容】	【取組状況及び成果】 【コロナ禍における対応】

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【(1)～(2)合わせて4ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の取組状況及び成果
(1)事業の実施に伴う大学の国際化	
【実績・準備状況】 計画調書の **[事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及]** **①事業の実施に伴う大学の国際化** **②国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及** からの転載（事務局にて転載済） 【計画内容】	【取組状況及び成果】 申請時の事業計画と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの取組状況及び成果について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。 【コロナ禍における対応】 コロナ禍において、事業を円滑に運営するための工夫や学生への配慮がなされていれば記載してください。
(2)国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及	
【実績・準備状況】 【計画内容】	【取組状況及び成果】 【コロナ禍における対応】

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

⑤ 事業計画の実現性、事業の発展性（補助期間終了後の継続性を含む）、交流プログラムの質の向上のための評価体制

【（1）は2ページ以内、（2）～（4）は合わせて4ページ以内】

申請時の事業計画	事業計画の取組状況及び成果
（1）年度別実施計画	
【2018年度（申請時の準備状況も記載）】 【2019年度】 【2020年度】 【2021年度】 【2022年度】	【取組状況及び成果】 【コロナ禍における対応】

計画調書の［本事業の実施計画、評価体制］
①年度別実施計画
②交流プログラムの質の向上のための評価体制
③補助期間終了後の事業展開
④補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画
からの転載（事務局にて転載済）

申請時の事業計画と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの取組状況及び成果について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

コロナ禍において、事業を円滑に運営するための工夫や学生への配慮がなされていれば記載してください。

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

（2）交流プログラムの質の向上のための評価体制	
	【取組状況及び成果】 【コロナ禍における対応】
（3）補助期間終了後の事業展開	
	【取組状況及び成果】 【コロナ禍における対応】

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

（4）補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画	
	【取組状況及び成果】 【コロナ禍における対応】

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

⑥ 留意事項への対応等【2ページ以内】

（1）留意事項への対応

中間評価における留意事項	留意事項への対応状況
中間評価結果に記載されている**（特記事項）**の**＜留意事項＞**（当該大学にのみ開示）からの転載 （事務局にて転載済）	左記の**【中間評価結果】**の内容に対応する2020年度から2022年度末までの当該事業に係る取組状況について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。 また、2022年度末までに対応できなかった場合、及び留意事項が補助期間終了後の取組にまで言及している場合には、2023年度以降の取組状況、取組予定であることがわかるように記入してください。

（2）「①交流プログラムの内容」～「⑤事業計画の実現性、事業の発展性（補助期間終了後の継続性を含む）、交流プログラムの質の向上のための評価体制」以外の特記すべき成果

［①交流プログラムの内容］～［⑤事業計画の実現性、事業の発展性（補助期間終了後の継続性を含む）、交流プログラムの質の向上のための評価体制］に記入した内容以外の特記すべき成果があれば、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

2. 目標の達成状況	
⑩ 達成目標【(1)～(6)合わせて7ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の取組状況及び成果
（1）将来の関係を見据えた、両国間の連携強化に資する目標について	
（ｉ）事業計画全体の達成目標（事業開始～2022年度まで） 計画調書の［達成目標］ **① 将来の関係を見据えた、両国間の連携強化に資する目標について** からの転載（事務局にて転載済） （ⅱ）中間評価までの達成目標（事業開始～2019年度まで）	申請時の目標と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの達成状況について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

（2）アウトカム達成のための具体的な取組
アウトカム達成のための具体的な取組について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

（3）養成しようとするグローバル人材像について	
（ｉ）事業計画全体の達成目標（事業開始～2022年度まで） 計画調書の **［達成目標］** **②　養成しようとするグローバル人材像について** からの転載（事務局にて転載済） （ii）中間評価までの達成目標（事業開始～2019年度まで）	申請時の目標と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの達成状況について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

(4)学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアした日本人学生数の推移について

(ｉ)本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

	外国語力基準	達成目標　（単位：人（延べ数））	
		中間評価まで（事業開始～2019年度まで）	事業計画全体（事業開始～2022年度まで）
	【参考】本事業計画において海外に留学する日本人学生数		
1			
2			

計画調書の［達成目標］
③－１学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について
からの転載（事務局にて転載済）

ⅱ)外国語力基準を定めた考え方
(※(ｉ)において、複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて明示すること)

(ⅲ)事業計画全体の目標達成に向けたプロセス(事業開始～2022年度まで)
(※(ｉ)において複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて目標を明示すること)

(ⅳ)中間評価までの目標達成に向けたプロセス(事業開始～2019年度まで)
(※(ｉ)において複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて目標を明示すること)

(ｉ)本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアした学生数に関する達成状況
【2022年度末における目標の達成状況】

	外国語力基準	達成状況　（単位：人（延べ数））				
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	海外に留学した日本人学生数（2018～2022年度の実績合計）（実渡航・オンライン・ド含む）					
	上記のうち外国語力達成した合計人					
1						
2						

左記の達成目標に対する数値実績を、「事後評価データシート①」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

左記の内容に対応する2018年度の採択後から2022年度末までの達成状況について、できる限り、申請時の目標と対比させて具体的・客観的なデータ（外部で実施されている資格試験等の成績結果等）をもとに実績値を明記し、分かりやすく記入してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

(5)学生に修得させる具体的能力のうち、(4)以外について	
(ⅰ)事業計画全体の達成目標(事業開始～2022年度まで) 計画調書の［達成目標］ **③－２学生に修得させる具体的能力のうち、「③－１」以外について** からの転載（事務局にて転載済） (ⅱ)中間評価までの達成目標(事業開始～2019年度まで)	申請時の目標と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの達成状況について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

(6) 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について	
(ⅰ)事業計画全体の達成目標(事業開始～2022年度まで) 計画調書の［達成目標］ **④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について** からの転載（事務局にて転載済） (ⅱ)中間評価までの達成目標(事業開始～2019年度まで)	申請時の目標と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの達成状況について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

（7）本事業計画におけるＣＯＩＬ型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の推移について【2ページ以内】

（ｉ）COIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標

（単位:授業科目数…科目、受講者数…人(延べ数)）

	中間評価までの達成目標 (2019年度まで)	事後評価までの達成目標 (2022年度まで)
本事業における COIL型教育手法を活用した 授業科目数		
大学全体の COIL型教育手法を活用した 授業科目数		
本事業における COIL 型教育の受講者数 （日本人学生）		
本事業における COIL 型教育の受講者数 （外国人学生）		

申請時の計画調書に記載した人数の転載
（事務局にて転載済）

計画調書の［達成目標］
⑤ 本事業計画におけるＣＯＩＬ型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の推移
からの転載（事務局にて転載済）

（ⅱ）目標を設定した考え方及び達成までのプロセス
（事業計画全体、中間評価までの双方について）

（ｉ）COIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成状況

（単位:授業科目数…科目、受講者数…人(延べ数)）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
本事業におけるCOIL 型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL 型教育の受講者数（外国人学生）					

左記の達成目標に対する数値実績を、「事後評価データシート①」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

申請時の目標と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの達成状況について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

⑪ 本事業計画において海外に留学した日本人学生数の推移 【3ページ以内】

現状(2017年5月1日現在)※
※現状は、事業の取組単位(全学、学部等)における2017年5月1日現在の人数。

人

申請時の計画調書に記載した人数の転載（事務局にて転載済）

（ⅰ）日本人学生数の達成目標

事業計画全体の達成目標(事業開始～2022年度まで)	0
うち申請時の事業計画全体の達成目標（海外相手大学追加調書分がある場合のみ記載）	
中間評価までの達成目標(事業開始～2019年度まで)	0
うち申請時の中間評価（海外相手大学追加調	

計画調書（海外相手大学追加調書を提出している場合はその内容も含む）を参照し、「事後評価データシート①」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

［上記の内訳］ （単位：人）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数	0	0	0	0	0
申請時の計画調書記載人数					
海外相手大学追加調書分					

計画調書の［達成目標］
⑥本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移
からの転載（事務局にて転載済）

（ⅱ）目標を設定した考え方及び達成までのプロセス
（事業計画全体、中間評価までの双方について）

日本人学生数の目標の達成状況

事業計画全体の達成状況（事業開始～2022年度まで）	0
中間評価までの達成状況（事業開始～2019年度まで）	0

左記に対する数値実績を、「事後評価データシート①」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

［上記の内訳］ （単位：人）

	2				2022年度
合計人数					0
実渡航					
オンライン					
ハイブリッド					

【目標の達成状況】

左記の内容に対応する2018年度の採択後から2022年度末までの達成状況について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　）

⑫ 本事業計画において受け入れた外国人学生数の推移 【3ページ以内】

現状(2017年5月1日現在)※
※現状は、事業の取組単位(全学、学部等)における2017年5月1日現在の人数。

人 ← 申請時の計画調書に記載した人数の転載（事務局にて転載済）

（ⅰ）外国人学生数の達成目標

事業計画全体の達成目標(事業開始～2022年度まで)	0
うち申請時の事業計画全体の達成目標（海外相手大学追加調書分がある場合のみ記載）	
中間評価までの達成目標(事業開始～2019年度まで)	0
うち申請時の事業計画全体の達成目標（海外相手大学追加調書分がある場合のみ記載）	

計画調書（海外相手大学追加調書を提出している場合はその内容も含む）を参照し、「事後評価データシート①」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

［上記の内訳］ （単位：人）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数	0	0	0	0	0
申請時の計画調書記載人数					
海外相手大学追加調書分					

（ⅱ）目標を設定した考え方及び達成までのプロセス
（事業計画全体、中間評価までの双方について）

計画調書の［達成目標］
⑦本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移
からの転載（事務局にて転載済）

外国人学生数の目標の達成状況

事業計画全体の達成状況（事業開始～2022年度まで）	0
中間評価までの達成状況（事業開始～2019年度まで）	0

左記に対する数値実績を、「事後評価データシート①」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

［上記の内訳］ （単位：人）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数			0	0	0
実渡航					
オンライン					
ハイブリッド					

左記の内容に対応する2018年度の採択後から2022年度末までの達成状況について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

【目標の達成状況】

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　）

⑬ 交流学生数 【国内連携大学数及び交流プログラム数に応じたページ数】

申請時の事業計画

（ｉ）本事業における交流学生数（計画）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		合計	
各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は、（ⅲ）表参	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
									0	0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無											0	0
											0	0

計画調書（海外相手大学追加調書を提出している場合はその内容も含む）を参照し、「事後評価データシート②」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

（ⅱ）国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	① 単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流
	② 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流
	③ 上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流
	④ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流

1.【代表申請大学】

大学名	

交流プログラム名（相手大学名）	交流方向	交流形態	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計
	派遣							0
	受入							0
	派遣							0
	受入							0
	派遣							0
	受入							0
	派遣							0
	受入							0
	派遣							0
	受入							0

事業計画の取組状況及び成果

（ｉ）本事業における交流学生数（実績）

		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		合計	
各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は、（ⅲ）表参照）		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の												0	0
												0	0
（内訳）実渡航・オンライン・ハイブリッド										0	0	0	0
	オ			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハ			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

左記に対する数値実績を、「事後評価データシート②」を活用して記入し、表を図として貼り付けてください。

（ⅱ）国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	① 単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	実	実渡航
	② 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	オ	オンライン
	③ 上記以外の交流期間3ヶ月未満の交流	ハ	ハイブリッド
	④ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		

1.【代表申請大学】

大学名	

交流プログラム名（相手大学名）	交流方向	交流形態	2018年度			2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			合計		
			実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ
	派遣																	0	0	0
	受入																	0	0	0
	派遣																	0	0	0
	受入																	0	0	0
	派遣																	0	0	0
	受入																	0	0	0
	派遣																	0	0	0
	受入																	0	0	0
	派遣																	0	0	0
	受入																	0	0	0

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　）

2.【国内連携大学等】

大学名

交流プログラム名（相手大学名）	交流方向	交流形態	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計
	派遣							0
	受入							0
	派遣							0
	受入							0

3.【国内連携大学等】

大学名

交流プログラム名（相手大学名）	交流方向	交流形態	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計
	派遣							0
	受入							0
	派遣							0
	受入							0

2.【国内連携大学等】

大学名

交流プログラム名（相手大学名）	交流方向	交流形態	2018年度			2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			合計		
			実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ
	派遣																	0	0	0
	受入																	0	0	0
	派遣																	0	0	0
	受入																	0	0	0

3.【国内連携大学等】

大学名

交流プログラム名（相手大学名）	交流方向	交流形態	2018年度			2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			合計		
			実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ
	派遣																	0	0	0
	受入																	0	0	0
	派遣																	0	0	0
	受入																	0	0	0

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

（ⅲ）本事業で計画している交流学生数（派遣・受入別　各内訳の集計）

（単位：人）

日本人学生の派遣 【計画】			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計
年度別合計人数			0	0	0	0	0	0
【交流形態別　内訳】								
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0	0	0	0	0	0
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有						0
		無						0
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0	0	0	0	0	0
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有						0
		無						0
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0	0	0	0	0	0
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有						0
		無						0
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0	0	0	0	0	0
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有						0
		無						0

（ⅲ）本事業における交流学生数（派遣・受入別　各内訳の集計）

（単位：人）

日本人学生の派遣【実績】			2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			合計		
				0			0			0			0			0		
				実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
年度別合計人数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【交流形態別　内訳】																		
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有														0	0	0
		無														0	0	0
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有														0	0	0
		無														0	0	0
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有														0	0	0
		無														0	0	0
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有														0	0	0
		無														0	0	0

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

（単位：人）

外国人学生の受入【計画】	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計
年度別合計人数	0	0	0	0	0	0
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有						0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無						0
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流	0	0	0	0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有						0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無						0
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有						0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無						0
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流	0	0	0	0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有						0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無						0

（単位：人）

外国人学生の受入【実績】	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			合計		
		0			0			0			0			0		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
年度別合計人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【交流形態別　内訳】																
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有														0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無														0	0	0
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有														0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無														0	0	0
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有														0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無														0	0	0
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有														0	0	0
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無														0	0	0

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

（ⅳ）本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標

(1)代表申請大学【大学名:　　大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を 活用した授業科目数	

【各年度通年の数値を記入】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業における COIL型教育手法を 活用した授業科目数					
大学全体の COIL型教育手法を 活用した授業科目数（Ａ）					
全授業科目数（Ｂ）					
割合（Ａ/B）					
本事業における COIL型教育の受講者数 （日本人学生）					
本事業における COIL型教育の受講者数 （外国人学生）					

(2)国内連携大学【大学名:　　大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を 活用した授業科目数	

【各年度通年の数値を記入】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業における COIL型教育手法を 活用した授業科目数					
大学全体の COIL型教育手法を 活用した授業科目数（Ａ）					
全授業科目数（Ｂ）					
割合（Ａ/B）					
本事業における COIL型教育の受講者数 （日本人学生）					
本事業における COIL型教育の受講者数 （外国人学生）					

（ⅳ）本事業で実施したCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数

(1)代表申請大学【大学名:　　大学】

【各年度通年の数値を記入】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業における COIL型教育手法を 活用した授業科目数					
大学全体の COIL型教育手法を 活用した授業科目数（Ａ）					
全授業科目数（Ｂ）					
割合（Ａ/B）					
本事業における COIL型教育の受講者数 （日本人学生）					
本事業における COIL型教育の受講者数 （外国人学生）					

(2)国内連携大学【大学名:　　大学】

【各年度通年の数値を記入】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業における COIL型教育手法を 活用した授業科目数					
大学全体の COIL型教育手法を 活用した授業科目数（Ａ）					
全授業科目数（Ｂ）					
割合（Ａ/B）					
本事業における COIL型教育の受講者数 （日本人学生）					
本事業における COIL型教育の受講者数 （外国人学生）					

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

(3)国内連携大学【大学名:　　大学】

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	

【各年度通年の数値を記入】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業における COIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体の COIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業における COIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業における COIL型教育の受講者数（外国人学生）					

(4)事業全体の合計

[2017年度通年] COIL型教育手法を活用した授業科目数	0

【各年度通年の数値を記入】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業における COIL型教育手法を活用した授業科目数	0	0	0	0	0
大学全体の COIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	0	0	0	0	0
全授業科目数（B）	0	0	0	0	0
割合（A/B）					
本事業における COIL型教育の受講者数（日本人学生）	0	0	0	0	0
本事業における COIL型教育の受講者数（外国人学生）	0	0	0	0	0

(3)国内連携大学【大学名:　　大学】

【各年度通年の数値を記入】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業における COIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体の COIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業における COIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業における COIL型教育の受講者数（外国人学生）					

(4)事業全体の合計

【各年度通年の数値を記入】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業における COIL型教育手法を活用した授業科目数	0	0	0	0	0
大学全体の COIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	0	0	0	0	0
全授業科目数（B）	0	0	0	0	0
割合（A/B）					
本事業における COIL型教育の受講者数（日本人学生）	0	0	0	0	0
本事業における COIL型教育の受講者数（外国人学生）	0	0	0	0	0

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

（ｖ）【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の目標と実績】

（1）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入

（2）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名:　　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名:　　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

（ｖ）【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の目標と実績】

（1）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入

（2）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1.代表申請大学 【大学名:　　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名:　　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

3. 国内連携大学 【大学名:　　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

3. 国内連携大学 【大学名:　　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

その他（⑩～⑬に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数		備考（プログラム内容が分かるURL等）
記入例） 2020年3月～2021年5月	○○○プログラム	▽▽	人	https://www.....
			人	
			人	
			人	

「日本人学生数」の実績値及び「外国人学生数」の実績値としてはカウントできないが、本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラムがあれば、その名称と参加者数を記入してください。
また、プログラム内容が分かるＵＲＬ等があれば、備考へ記入してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

プラットフォーム構築プログラム部分
プラットフォーム構築プログラムの内容及び計画の妥当性・実現性
① 事業の目的・概要等（計画調書からの転載）
【事業の目的及び概要】 計画調書の［プラットフォーム構築プログラムの内容及び計画の妥当性・実現性］ ①事業の目的・概要等 からの転載（事務局にて転載済）

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

② 事業の概念図（計画調書からの転載）【1ページ以内】

計画調書の［プラットフォーム構築プログラムの内容及び計画の妥当性・実現性］
②事業の概念図
からの転載（事務局にて転載済）

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

③ 国内大学等の連携図（計画調書からの転載）【1ページ以内】

計画調書の［プラットフォーム構築プログラムの内容及び計画の妥当性・実現性］
③国内大学等の連携図
からの転載（事務局にて転載済）

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

取組実績の概要【2ページ以内】

・［取組実績の概要］は、事後評価結果とともに基本的に原文のまま公表します。本事業の取組状況や成果、目標の達成状況及び補助期間終了後の展開等について、広く社会に分かりやすく紹介するという観点から作成してください。
・本欄のみで完結するようにしてください。（「事後評価調書〇ページ参照」などの記載は認められません。）
・本欄に記入した内容について、本調書の他項目の記載事項と齟齬がないよう注意して作成してください。

※文字の大きさは１０．５ポイントで記入してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅰ 【1ページ以内】

【Ⅰ　事業全般について】

・［特筆すべき成果（グッドプラクティス）］は、事後評価結果とともに基本的に原文のまま公表します。本事業の成果について、広く社会に分かりやすく紹介するという観点から作成してください。
・本欄のみで完結するようにしてください。「事後評価調書〇ページ参照」などの記載は認められません。
・適宜図表等を用いて作成いただいて構いません。
・本欄に記入した内容について、本調書の記載事項と齟齬がないよう注意して作成してください。

※文字の大きさは１０．５ポイントで記入してください。

※特に国際教育・交流プログラムにおいて、オンラインを活用し、どのような工夫や改善を図ったかについては、次ページの「特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅱ」に記載してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅱ 【1ページ以内】

【Ⅱ　オンラインの活用について】

・［特筆すべき成果（グッドプラクティス）］は、事後評価結果とともに基本的に原文のまま公表します。本事業の成果について、広く社会に分かりやすく紹介するという観点から作成してください。
・本欄のみで完結するようにしてください。「事後評価調書〇ページ参照」などの記載は認められません。
・コロナ禍であることを踏まえ、オンラインを活用してどのような工夫を図ったかについても記入してください。
・適宜図表等を用いて作成いただいて構いません。
・本欄に記入した内容について、本調書の記載事項と齟齬がないよう注意して作成してください。

※特に国際教育・交流プログラムにおいて、オンラインを活用し、どのような工夫や改善を図ったか（例：オンライン科目の単位互換や単位の相互認定に関する基準・ルールの策定等）について記載してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

事業全体のアクティビティ 【1ページ以内】	
20XX年　月	
20XX年　月	採択後から2022年度末までの当該事業に係るアクティビティについて、年月及び内容を、実施時期の早い順に記入してください。 また、補助期間終了後である2023年度のアクティビティについては、記入しないでください。 なお、必要に応じて、採択前（2018年4月～事業開始）のアクティビティを記入してもかまいませんが、それらは事後評価の対象とはなりません。 記入する場合は、下記を参考に採択前のものであることを明示してください。 （採択前のアクティビティを記入する場合） **事業全体のアクティビティ** 【1ページ以内】 20XX年4月　・・・・・・・・・・・・・・・・ 20XX年7月　・・・・・・・・・・・・・・・・ （以上、採択前のアクティビティ） 20XX年12月　・・・・・・・・・・・・・・・・

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

1．取組実績及び成果	
⑦ プラットフォーム構築プログラムの内容【5ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の取組状況及び成果
【実績･準備状況】 計画調書の［プラットフォーム構築プログラムの内容及び計画の妥当性・実現性］ ④プラットフォーム構築プログラムの内容 からの転載（事務局にて転載済） 【計画内容】	【取組状況及び成果】 申請時の事業計画と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの取組状況及び成果について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。 【コロナ禍における対応】 コロナ禍において、事業を円滑に運営するための工夫や学生への配慮がなされていれば記載してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

⑧ 年度別実施計画と資金計画の合理性等【（1）は2ページ以内、（2）～（4）は合わせて3ページ以内】	
申請時の事業計画	事業計画の取組状況及び成果
（1）年度別実施計画	
【2018年度（申請時の準備状況も記載）】 【2019年度】 計画調書の［事業計画の実現に向けた準備状況、資金計画の合理性等］ ①年度別実施計画 ②補助期間終了後の事業展開 ③補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画からの転載 （事務局にて転載済） 【2021年度】 【2022年度】	【取組状況及び成果】 申請時の事業計画と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの取組状況及び成果について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。 【コロナ禍における対応】 コロナ禍において、事業を円滑に運営するための工夫や学生への配慮がなされていれば記載してください。

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

（2）補助期間終了後の事業展開	
	【取組状況及び成果】 【コロナ禍における対応】

（3）補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画	
	【取組状況及び成果】 【コロナ禍における対応】

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

⑨ 留意事項への対応等【2ページ以内】

（1）留意事項への対応

中間評価における留意事項	留意事項への対応状況
中間評価結果に記載されている**（特記事項）**の**＜留意事項＞**（当該大学にのみ開示）からの転載 （事務局にて転載済）	左記の**【中間評価結果】**の内容に対応する2020年度から2022年度末までの当該事業に係る取組状況について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。 また、2022年度末までに対応できなかった場合、及び留意事項が補助期間終了後の取組にまで言及している場合には、2023年度以降の取組状況、取組予定であることがわかるように記入してください。

（2）「⑦プラットフォーム構築プログラムの内容」、「⑧年度別実施計画と資金計画の合理性等」以外の特記すべき成果

［⑦プラットフォーム構築プログラムの内容］～［⑧年度別実施計画と資金計画の合理性等］に記入した内容以外の特記すべき成果があれば、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

2. 目標の達成状況

⑭ 達成目標への対応状況

申請時の事業計画	事業計画の取組状況及び成果

（1）横展開に関する目標と実績【4ページ以内】

【現状分析及び目標設定】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

計画調書の［達成目標］
①横展開に関する目標
②質の向上に関する目標
③任意指標　からの転載
（事務局にて転載済）

【計画内容】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

申請時の事業計画と対比させて、2018年度の採択後から2022年度末までの取組状況及び成果について、文頭に簡潔に1文で記入した上で、具体的な説明は後述してください。

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）

（2）質の向上に関する目標と実績【4ページ以内】

申請時の事業計画

【現状分析及び目標設定】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

【計画内容】

事業計画の取組状況及び成果

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

（3）任意指標に対する実績【4ページ以内】

申請時の事業計画

【現状分析及び目標設定】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

【計画内容】

事業計画の取組状況及び成果

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

（代表大学名：　）（タイプＢ　主たる交流先：米国　　）

3. 今後の展開及び我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に対する貢献 【4ページ以内】

交流推進プログラム部分

【交流プログラムの内容】

交流推進プログラム部分について、【交流プログラムの内容】～【事業計画の実現性、事業の発展性（補助期間終了後の継続性を含む）、交流プログラムの質の向上のための評価体制】の項目毎に、補助期間終了後も、明確な事業計画や資金計画を策定し、本事業の成果を活かした活動が自主的・恒常的に行われているか、もしくは行う予定があるか、また、本事業が我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に貢献することができるかについて、それぞれ文頭に簡潔に1文で示した上で、具体的な説明は後述してください。

【質

【外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備】

【事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及】

【事業計画の実現性、事業の発展性（補助期間終了後の継続性を含む）、交流プログラムの質の向上のための評価体制】

プラットフォーム構築プログラム部分

【プラットフォーム構築プログラムの内容】

プラットフォーム構築プログラム部分について、【プラットフォーム構築プログラムの内容】～【年度別実施計画と資金計画の合理性等】の項目毎に、補助期間終了後も、明確な事業計画や資金計画を策定し、本事業の成果を活かした活動が自主的・恒常的に行われているか、もしくは行う予定があるか、また、本事業が我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に貢献することができるかについて、それぞれ文頭に簡潔に1文で示した上で、具体的な説明は後述してください。

【年

（代表大学名：　）（タイプB　主たる交流先：米国　）

その他
【その他我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に対する貢献について】 上記の各項目で記入した以外の内容があれば、記入してください。 文頭に簡潔に1文で示した上で、具体的な説明は後述してください。

補助期間における各経費の実績【年度ごとに1ページ】

（単位：千円）

計画調書に記載した年度ごとの各経費の明細について、2022年度までの実績報告書に基づき記載。
【年度ごとに1ページ】

＜2018年度＞　経　費　区　分	補助金額（a）	大学負担額（b）	支出実績（a＋b）	備考
[物品費]	5, 255	0	5, 255	
①設備備品費				
・〇〇システム一式	2, 455	0	2, 455	
・視聴覚装置一式	2, 800	0	2, 800	
・			0	
②消耗品費				
・			0	
・			0	
・			0	
[人件費・謝金]	0	0	0	
①人件費				
・雇用等経費（特任教授）			0	
・雇用等経費（〇〇用事務補佐員）			0	
・			0	
②謝金				
・謝金（〇〇フォーラム講師謝金）			0	
・			0	
・			0	
[旅費]	0	0	0	
・国内旅費（〇〇会議、実施調査）			0	
・国外旅費（〇〇調査）			0	
・外国人招へい等旅費（〇〇指導）			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
[その他]	8, 015	0	8, 015	
①外注				
・			0	
・			0	
・			0	
②印刷				
・			0	
・			0	
・			0	
③会議				
・			0	
・			0	
・			0	
④通信				
・			0	
・			0	
・			0	
⑤光熱水料				
・				
・				
・				
⑥その他（諸経費）				
・返納	8, 015		8, 015	利息174円
・			0	
・			0	
2018年度　合計	13, 270	0	13, 270	

「補助金額（ａ）」欄には補助事業に要した補助対象経費の額を、
「大学負担額（ｂ）」欄には、自己収入その他の金額を記入してください。
2018～2021年度分は確定済みの額を記入し、2022年度分は文部科学省に提出した実績報告書の額と一致するように記入してください。
（ただし千円単位で記入し、端数調整をしてください。）
「補助金額（ａ）」及び「大学負担額（ｂ）」を記入すると、「支出実績（ａ＋ｂ）」、各項目の合計額及び該当年度の合計額が自動的に計算されます。
各費目の内訳については、内容がある程度わかるように記入してください。

なお、「大学負担額(b)」記載以外に、国立大学法人及び公立大学法人における「運営費交付金」等で自己負担額がある場合、備考欄に具体的な金額等を補足することは可能です。

国内の大学が複数連携して実施している事業の場合は、実績報告書等と同様に、分担金配分の内訳がわかるように記入してください。

返納がある場合は、「[その他]⑥その他（諸経費）」欄に記入してください。

利息がある場合は「[その他]⑥その他（諸経費）」の「備考」欄に実際の利息額を円単位で記入してください。

（代表大学名：　　）（タイプB　主たる交流先：　米国　　）

（前ページの続き）

（単位：千円）

＜2019年度＞　経　費　区　分		補助金額（a）	大学負担額（b）	支出実績（a＋b）	備考
［物品費］		0	0	0	
①設備備品費					
・				0	
・				0	
・				0	
②消耗品費					
・				0	
・				0	
・				0	
［人件費・謝金］		0	0	0	
①人件費					
・				0	
・				0	
・				0	
②謝金					
・				0	
・				0	
・				0	
［旅費］		0	0	0	
・				0	
・				0	
・				0	
・				0	
・				0	
・				0	
・				0	
・				0	
［その他］		0	0	0	
①外注費					
・				0	
・				0	
・				0	
②印刷製本費					
・				0	
・				0	
・				0	
③会議費					
・				0	
・				0	
・				0	
④通信運搬費					
・				0	
・				0	
・				0	
⑤光熱水料					
・				0	
・				0	
・				0	
⑥その他（諸経費）					
・				0	
・				0	
・				0	
2019年度	合計	0	0	0	

（代表大学名：　　）（タイプB　主たる交流先：　米国　　）

（前ページの続き）

（単位：千円）

＜2020年度＞　経　費　区　分	補助金額（a）	大学負担額（b）	支出実績（a＋b）	備考
［物品費］	0	0	0	
①設備備品費				
・			0	
・			0	
・			0	
②消耗品費				
・			0	
・			0	
・			0	
［人件費・謝金］	0	0	0	
①人件費				
・			0	
・			0	
・			0	
②謝金				
・			0	
・			0	
・			0	
［旅費］	0	0	0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
［その他］	5,000	0	5,000	
①外注費				
・			0	
・			0	
・			0	
②印刷製本費				
・			0	
・			0	
・			0	
③会議費				
・			0	
・			0	
・			0	
④通信運搬費				
・			0	
・			0	
・			0	
⑤光熱水料				
・			0	
・			0	
・			0	
⑥その他（諸経費）				
・繰越	5,000		5,000	
・			0	
・			0	
2020年度　合計	5,000	0	5,000	

繰越がある場合は、「［その他］⑥その他（諸経費）」欄に記入してください。

（代表大学名：　　）（タイプB　主たる交流先：　米国　　）

（前ページの続き）

（単位：千円）

＜2021年度＞　経　費　区　分	補助金額（a）	大学負担額（b）	支出実績（a＋b）	備考
［物品費］	0	0	0	
①設備備品費				
・			0	
・			0	
・			0	
②消耗品費				
・			0	
・			0	
・			0	
［人件費・謝金］	0	0	0	
①人件費				
・			0	
・			0	
・			0	
②謝金				
・			0	
・			0	
・			0	
［旅費］	0	0	0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
［その他］	0	0	0	
①外注費				
・			0	
・			0	
・			0	
②印刷製本費				
・			0	
・			0	
・			0	
③会議費				
・			0	
・			0	
・			0	
④通信運搬費				
・			0	
・			0	
・			0	
⑤光熱水料				
・			0	
・			0	
・			0	
⑥その他（諸経費）				
・			0	
・			0	
・			0	
2021年度　合計	0	0	0	

（代表大学名：　　）（タイプB　主たる交流先：　米国　　）

（前ページの続き）

（単位：千円）

＜2022年度＞　経　費　区　分	補助金額（a）	大学負担額（b）	支出実績（a＋b）	備考
［物品費］	0	0	0	
①設備備品費				
・			0	
・			0	
・			0	
②消耗品費				
・			0	
・			0	
・			0	
［人件費・謝金］	0	0	0	
①人件費				
・			0	
・			0	
・			0	
②謝金				
・			0	
・			0	
・			0	
［旅費］	0	0	0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
・			0	
［その他］	0	0	0	
①外注費				
・			0	
・			0	
・			0	
②印刷製本費				
・			0	
・			0	
・			0	
③会議費				
・			0	
・			0	
・			0	
④通信運搬費				
・			0	
・			0	
・			0	
⑤光熱水料				
・			0	
・			0	
・			0	
⑥その他（諸経費）				
・			0	
・			0	
・			0	
2022年度　合計	0	0	0	

（代表大学名：　　）（タイプB　主たる交流先：米国　　）